

SIH道場 総合科学入門講座

学術的発想と書き方①
担当: 山口裕之

多かったパターン

- 決意表明型。
- 「体系的な知識を身につけねばならないと思った」など。
- 数名、カギカッコの使い方が変。
- 「『 』」ではなく、「『 』」です。
- 「倫理的思考力」と書いている人が多数。
- 「総合化学入門講座」と書いている人も多数。

「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」

- やめて、理由を書くようにしましょう。
- 「ぼくはこう思います。先生はどう思いますか？」
と問われても答えようがありません。
- 「～ではないか」といった疑問文には、

杞憂

- 知識をたくさん知れば知るほど、判断に迷うことになるのではないか。
- 断片的な知識を体系化するのは難しいのではないか。
- 「誰もが納得する解答」とは、どこまで調べたらよいのだろう。
- いくら客観的な資料を提示しても、信じない人にとってはでっち上げと思われるのではないか。

よくわからなかった

- 「個人的な興味関心」と「学問的な興味関心」との違いがよくわからなかった。
- 「よくわからなかった」ではなく、具体的にどのように理解したのか、にもかかわらず、どこがどうして理解できなかったのかを説明してください。
- 学問的な興味関心とは、学問の知識体系が求める問い。

よくわからなかった②

- 知識と知恵の違いがよくわからなかった。辞書を引いて調べたところ、「単に知っているのが知識、その知識を理解し自由に操れるようになると知恵」だと考えた。
- 知識を体系化することで、新たな状況や知識に対する適切な評価や価値判断ができる状態が「知恵」だと説明しました。
- 実際問題、自分で身につけていかないと、「知恵がある」というのがどんな状態かは具体的には分からないかもしれません。

「思い」も大切では。

- 正しく考えるうえで「思い」も必要ではないか。
たとえば、日常生活の不便を解消したいという思いが、改善につながる場合もある。
-この授業で言う「意見」とは、「正しいこととして主張するもの」です。



今回の講義の目的:
「コピー」と「引用」の
違いを理解する。

ステップ1. 「コピー」と言われたい書き方・基礎編

- ①: 情報源は引用と出典で明示する。

ステップ2. 「コピー」をしようと思わなくなるための方法

- ②: 複数の情報源を確認する。
- ③: 反対意見・反対の事例を常に探す。
- ④: 「論じるべきこと」を見つける。

ステップ3. 「引用」を活用した文章の構成

- ⑤: 「思う」は禁句。
- ⑥: 接続詞を入れる。
- ⑦: 具体的な結論を出す。

論文・レポートとは何か？

- 自分の意見を「正しいもの」として主張する。
- 他者と対話するために必須の能力。
- 高校までの学習とは異なるもの。
-「似たもの」と混同しないで。

「調べ学習」との違い

- 調べ学習
 - 調べてきたことを報告する。
 - 「正解」を探してくる。
- 論文やレポート
 - 賛否両論のある話題
 - まだ正解の見つかっていない問題

×「正解はひとそれぞれで決めればいい」
⇒自分が決めた「正解」を書くように。

入試の「小論文」との違い

- 小論文
- 論文・レポート

調べた情報の利用の仕方が問題！

引用とコピーの違い

- コピー
- 引用
 - ①
 - ②
 - ③

自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する。

「ハイブリッド車の問題点」

ハイブリッド自動車は内燃機関およびその補機一式と電動機および駆動用バッテリーと燃料タンクを1台の車に搭載するため、全般に同程度の排気量のガソリン車と比較して15-20%ほど重量が増加する。

システムの複雑化は欠陥や故障などによるリコールの増加など信頼性の低下に繋がる場合があり、重量の増加は燃費の悪化に加えタイヤやブレーキと言った車体、及び路面のダメージを増大させる。

こうした問題点から、ハイブリッド車は環境に良いとは言えない。

「出所表示」に示すべき情報

- ウェブページの場合
- 本の場合
- 論文の場合

⇒読者が出典を速やかに確認できるように。

なぜ大部分が「引用」になってしまうのか？

- 情報源を一つしか見ないから。

⇒「論じるべきこと」を発見する。

– 賛否両論が対立している点＝

– 主従関係: その「問題」を解決するという目的で書く。

たとえば、原発の是非について、

- 賛成の主張を探してみる。
- 反対の主張を探してみる。
- 両者を比較検討する。
- 検討するときの根拠として「引用」を用いる。
- 自分の主張を打ち出す。

…しかし、

ダメな結論の例

- 「人それぞれで決めればよい」
– あなたが決めた主張を論じてください。
- 「真剣に考えるべきだ」
– レポートを書く段階で実行しておくべき。
- 「最近の学生は…」
– 他人事っぽい。
- 「電気に頼らない生活をするべき」
– 非現実的な結論。
- 「ある程度はやむをえない」
– 具体的に何をしたらよいのかよく分からない。
- 「結局〇〇思考」
– 一見「根本的」だが無意味な結論。

大切なことは、

- 「何でもうまくいくちょっとした一言」
なんてない。
- 「●●だったら、どうしよう」と杞憂するのではなく、まずやる。